

< 円安と物価上昇によるインフレ時代に備える >

FPネットワーク神奈川会員 内田 敬之

■ 歴史的な円安

10/20 の東京市場で、円相場は1米ドル=150 円台となり、32 年ぶりの円安・ドル高水準を付けました。2022 年の円安の値幅は 38 円を超え、円安方向としては史上最大の値幅になり、歴史的な値動きになっています。

他の通貨と比較しても米ドルに対して円の弱さは際立っており、これは米ドル全面高と円全面安を併発した結果です。日本はコロナ前の水準を唯一回復できない先進国であり、それがそのまま金融政策の姿勢に反映され、日米の金利格差が円安・ドル高に帰結しています。また日本の輸入の 25% を占めているエネルギー費用の高騰で、基礎収支は明らかに流入超から流出超へ傾斜しており、これも円安・ドル高の要因になっています。



■ 円安は良いのか？悪いのか？

メリットとしては、円建て輸出額増加による企業収益の改善、外貨投資等による円建て所得収支の増大があります。一方でデメリットとしては、輸入コスト上昇によるインフレにより、国内企業収益および消費者の購買力低下が発生します。つまりは得する者と損する者の溝を深くするのが円安だと考えます。

N P O 法 人 F P ネットワーク 神 奈 川

〒220-0021 横浜市西区桜木町 7-42 八洲学園横浜ビル 7 階

セミナー：TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

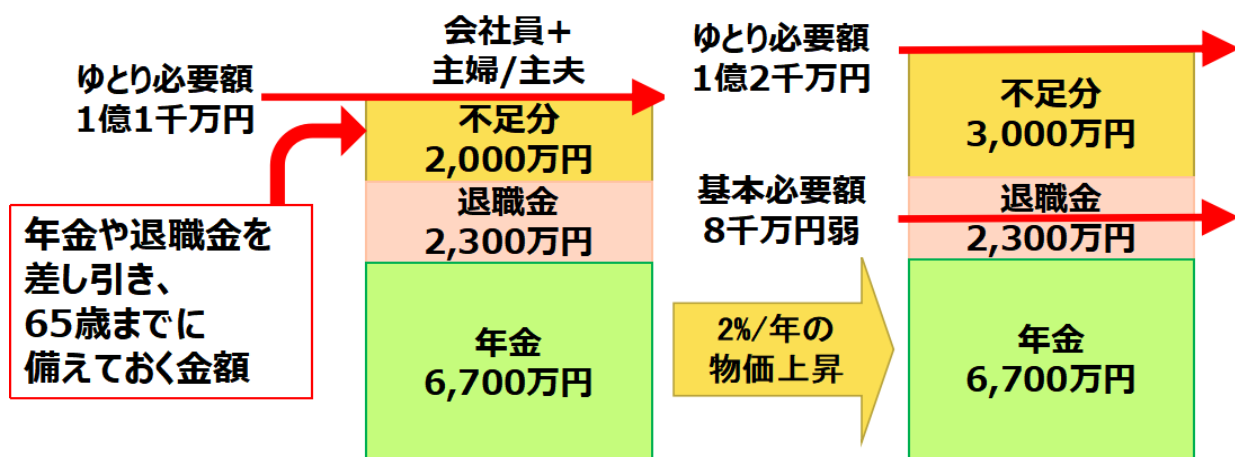
相談：TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp

現状では輸入物価が輸出物価の倍速で上昇しており、交易条件は悪化しています。そのため、実質所得への悪影響への不安があります。いずれ米インフレはピークアウトし、金利差が抑制されてくればドル全面高は終焉すると考えられますが、円安で輸出が増える国ではなくなった日本では過度な円高になることもないかもしれません。

■ インフレ時代に備える

このような中、円安とインフレが長期化するリスクに備えることが必要だと思えます。最近では食品価格やエネルギー料金などの値上げが相次ぎ、インフレの影響を感じる機会が増えています。このままインフレが長期的に続いた場合はどうなるのでしょうか？

人生100年時代に備えて老後資金問題を考えてみたいと思えます。会社員＋主婦/主夫世帯のゆとり必要額の例で見ると、老後の資金として2千万円が不足しています（図の左側）。この2千万円には物価上昇は考慮されていません。仮に現在45歳の方が20年後の65歳時に2千万円必要だとして、1年に2%の物価上昇を考慮に入れて計算し直すと、計算上は2千万円ではなく約3千万円必要という結果になります（図の右側）。ちなみに基本必要額だと約8千万円弱ですので、退職金等の額も考慮してそれぞれの方に合った無理のないプランで必要額を確認して確認することが必要です。



※生活費：生命保険文化センター「生活保障に関する調査」令和元年、退職金：厚生労働省（中央労働委員会）「賃金事情等総合調査（令和元年）」、年金：厚生労働省年金局「令和元年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」

物価上昇に合わせて給与や年金が増加するという保証があればいいですが、現実的には実現しない可能性も十分に考えられます。さらに物価が一年で2%上昇するというのは、日本銀行が公式に2%の物価安定の目標を掲げていますので、現実には発生する可能性があります。つまり今後は、物価が上昇していくことを加味して各自の実情を考慮しながら資産形成をする必要性がありそうです。

N P O 法 人 F P ネットワーク 神 奈 川

〒220-0021 横浜市西区桜木町7-42 八洲学園横浜ビル7階

セミナー：TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談：TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp